

.....

.....

.....

1

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[50]歳、勤続年数[29]年、現場経験年数[29]年、階級[消防司令]、同様の活動 [1年に数度]、任務 [車長]
○当事者B	年齢[35]歳、勤続年数[17]年、現場経験年数[17]年、階級[消防士長]、同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[28]歳、勤続年数[7]年、現場経験年数[7]年、階級[消防副士長]、同様の活動 [1年に数度]、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

.....

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	C	進行方向が赤信号のため、救急車を交差点手前で一時停止し、左右前右後方の安全確認を目視し、隊長に口頭で報告した。	
経過2	A	車載の自動音声拡声器を鳴らしながら、左右前左後方の安全確認を目視し、機関員に口頭で伝えた。	音声内容「救急車が通過します。道をあけて下さい。」
経過3	A・C	右前方に横断しようとしている歩行者が立ち止まっているのを目視した。	
経過4	A	歩行者が停止し交差点内の安全を確認した後、自動音声拡声器のOFFにした。	
経過5	C	歩行者が停止し交差点内の安全を確認した後、救急車を発進させた。	
経過6	A・C	発進直後に右前方の歩行者が横断歩道を渡りだしたのを目視した。	
経過7	A	機関員へ救急車停止を下命する。	
経過8	A・C	救急車が停止すると、歩行者も救急車が停止したのに気づき、横断を止めたのを目視した。	
経過9	A・C	再度、歩行者が停止し交差点内の安全を確認した後、救急車を発進させ交差点を通過した。	
経過10			

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できた。集中力、注意力があった。避難・退避がうまくいった。周囲の視界が確保できていた。指揮者が適切に指示した。他隊(員)との連携活動がうまくいった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭い場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が濡れたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：救急車の通行を周知させる方法は、車載の自動音声拡声器のみに偏ることなく、その場に応じて手動拡声器も併用すべきであった。

ヒヤリハット事例 (〇〇4丁目交差点にて)

